

しての機能を有してゐた。ところが、満洲事變が起つてこの線の奉天―山海關の部分に滿洲國に歸屬してしまつたので支那側は旋毛を曲げて、もう連帶運輸も何もやらぬ、郵便物も受けとらぬ、と無茶なことをいひだした。そして一時この北寧線は奉天―山海關の間を奉山線とよび、二つにわかれて二つへの運行をしてゐたが、それではとても不便でたまらないので、昭和九年七月一日、滿支通車協定」といふのが締結された。そこで奉天から北京までの直通列車は再び運行されることになつたのであるが、現在は、支那事變により、この間の運行はますます圓滑にいくやうになつた。この北寧線で、先づ北支那への第一歩を踏み出し、續いて各地の鐵路を中心として、戰蹟及び河北省を語ることにする。

〔山海關(シヤン・ハイ・コワン)〕こゝは滿洲と

支那の境界を劃する國境都市で、山海關の街は支那領である。萬里の長城が、こゝにその雄姿を起してゐることは有名である。山海關とはよくいつたもので、前に渤海の蒼波を控え、後ろに峻々たる山嶺が聳え、まさにどこからみても水陸の要害たるに恥ぢない。これぞ「天下第一關」といはれ「燕東の天險」(燕は北京の古名)と謳はれたゆゑ。この天險に起る萬里の長城は、(萬里長城の項参照)山海關の起點においては、城壁の高さが三十餘尺、東門、西門、南門があり、城門の樓上には有名な明の蕭顯が書いたと傳へられる「天下第一關」の扁額がかゝつてゐる。この扁額の一字の大きさは僅に一坪あまりある。拳匪の亂(明治卅一年の義和團事件)以來、各國の守備兵がこゝに駐屯するやうになつた。

〔史蹟に富む山海關〕滿洲事變の熱河軍戰の折には、南門の城壁に梯子をかけ、單身何柱國軍

0710

にのりこまうとしたわが山海關守備隊の兒玉大尉、及び南門上に斬りこみ、目にあまる敵兵と格闘して果てた吉田大尉の勇士の壮烈極まる戦蹟でもある。

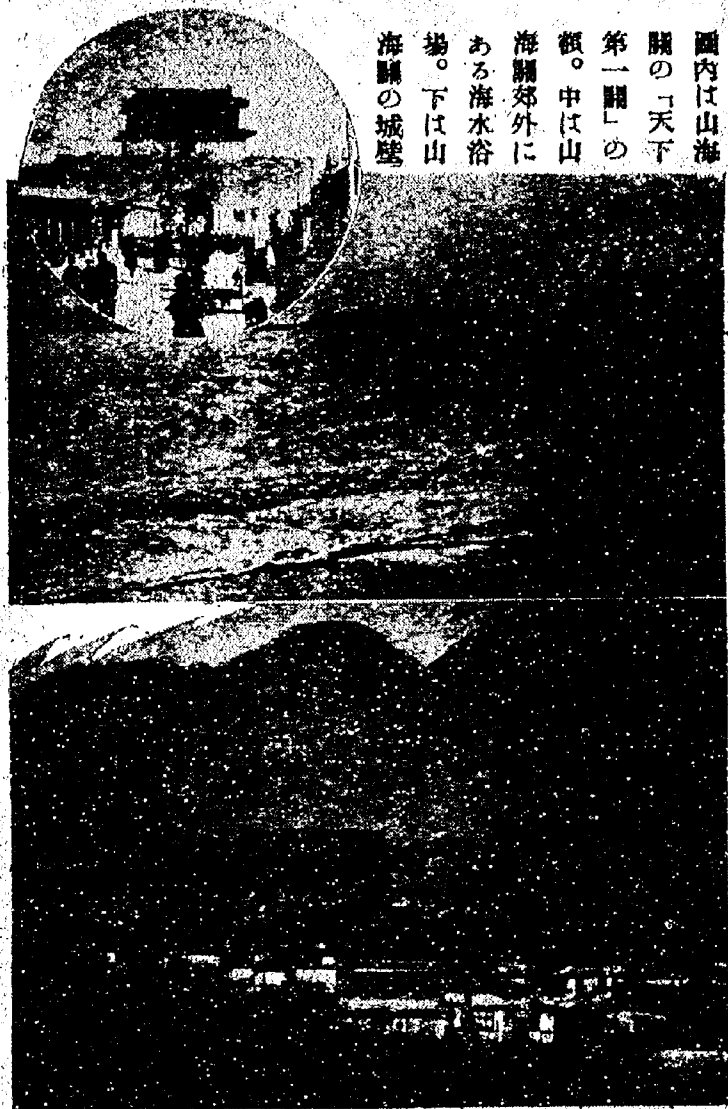
山海關は、滿支の境界にあるといふ地勢から、古來、幾度か歴史的な政權争の中心となつて來た。なかでも有名なのは直隸派華やかなりしころ、奉天の張作霖(チャンツォリン)と覇を争つた奉直戦である。奉直戦によつて張作霖は關内、つまり山海關の内なる北京に入らうといふ野望をもやし、第二次奉直戦の際、時の直隸軍の大將吳佩孚(ウーペイフ)とこゝに對戦した。このとき吳佩孚に強制されて熱河(ロウホオ)地方に兵を進めてゐた馮玉祥(フオンニイシヤン)の國民軍は、突然、奉天軍と妥協をし、軍を返して北京に入り、馮玉祥は時の大統領曹錕(ツァオクワン)を軟禁してしまつた。このことを山海關にあつて聞

いた吳佩孚は大いに驚き、かつ憤り、直ちに馮を討つべく北京に向つたがつひに果たさなかつた。さういふ風に、山海關は近代の支那軍閥争の紛争物のうへにも、重要な役割を占め、かすかすの秘話をもつてゐる。

〔檢關八景〕山海關の街は、家の屋根が汽車の車窓のそののやうに、一様にカマボコ型をしてゐるのが珍らしい。人口三萬、日本人は約百八十人。こゝは一名「檢關」ともいひ、附近には棲霞寺、玄陽洞の石佛寺など、いはゆる檢關八景の勝地が海抜千餘尺の仙境を形づくり、驛から東へ三マイルばかりの海岸は、これまた渤海に面した絶好の海水浴場である。「マイル半にわたる海水浴場は、柳楊、青松、白砂と相映じ、海水深く澄んで波も静かである。

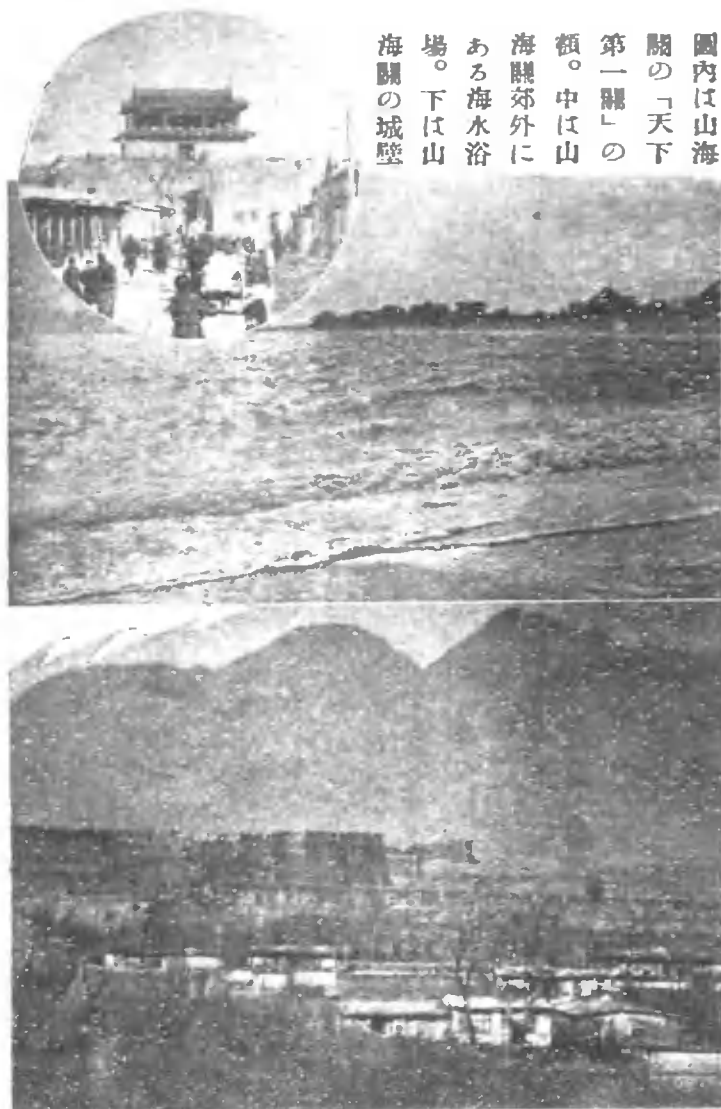
この近くの石河(シイホオ)は、支那料理に出て來る香魚を産することと知られてゐるがそれに

國內は山海
關の「天下
第一關」の
額。中は山
海關郊外に
ある海水浴
場。下は山
海關の城壁



0712-2 0712

國內は山海
關の「天下
第一關」の
額。中は山
海關郊外に
ある海水浴
場。下は山
海關の城壁



115

0712-2 0712